

Toyota Municipal Museum of Art Press Release

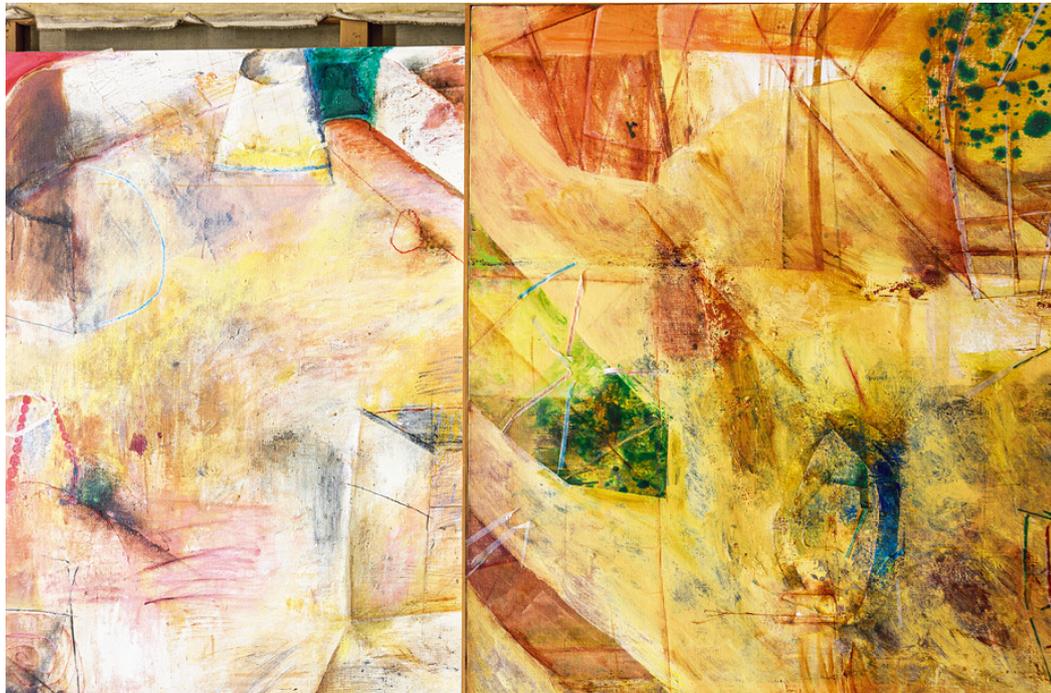
豊田市美術館 プレスリリース

2026.2.2



Toyota
Municipal
Museum
of Art

豊田市美術館



Hitsuda Nobuya: Scenes Passed By

櫃田伸也
通り過ぎた
風景

櫃田伸也—通り過ぎた風景

Hitsuda Nobuya - Scenes Passed By

2026年4月4日[土]—6月21日[日]

開館時間： 午前10時—午後5時30分(入場は午後5時まで)

休館日： 月曜日(5月4日は開館)

主催： 豊田市美術館

協力： KAYOKOYUKI

会場： 展示室1-4

観覧料	一般	高校・大学生	中学生以下
当日窓口販売	1,300円	900円	無料
オンライン販売	1,100円	700円	—

*前売券及び20名以上の団体は当日窓口料金から200円割引

*前売券の販売所、その他観覧料の減免対象者及び割引等については、当館ウェブサイトをご確認ください。

開催趣旨

「通り過ぎた風景」— 画家・櫃田伸也（ひつだ・のぶや、1941年、東京生まれ）は自身の作品に、そして多くの個展にこの言葉を付してきました。画家の過去最大の回顧展となる本展もそれになっています。

焼け野原の、そしてそこから復興する東京の街。1975年に赴任した愛知県立芸術大学のまわりのように開発が進む郊外。櫃田はそうした身近な、変化し続ける景色を出発点に、西洋絵画の技法を用いながら同時にやまと絵や山水画など日本をはじめとする東洋の絵画のエッセンスを取り入れた独自の絵画を描き、それを「通り過ぎた風景」と呼びました。一見穏やかながら実のところ革新的な櫃田の絵画は、継続して制作に向かうその姿勢とともに、彼が長く教育に携わったこともあり、現代の美術家たちにも大きな影響を与えています。

近年、1970年前後に盛んに議論された「風景論」がにわかに注目を集め、また、今日の加速度的に変化する世界においてその遠近を適切に結わえる「山水」のイメージの重要性が語られるなど、風景を軸に櫃田が20世紀後半から手掛けてきたその作品を振り返るべき時機がきているといえます。本展では1960年代から2026年の最新作まで作品約120点に初出の資料を交えて、描き続ける画家・櫃田伸也の歩みを振り返り、彼の「風景」と「絵画」がいかなるものなのか、そこから私たちは何を汲み取ることができるのか、あらためて見つめ直します。

展覧会のみどころ

－ 櫃田伸也の、15年ぶりの美術館での個展

櫃田伸也の展覧会は、2008年の愛知県立芸術大学の教え子たちとのグループ展「放課後のはらっぱ」（愛知県美術館、名古屋市美術館）、同年の東京藝術大学大学美術館、2011年の損保ジャパン東郷青児美術館での個展があげられますが、美術館での個展はそれ以来15年ぶり、作家が拠点とする東海地方では初の、待望の展覧会の開催です。

－ 櫃田伸也の、過去最大の回顧展

本展では1960年代から2026年の最新作まで、60年以上にわたる絵画制作の軌跡を作品約120点をとおして通覧します。

また、櫃田がNHK美術部に勤めていた時期の図面など、1960-70年代を中心とした画家形成期がうかがえる初出の資料を交えて、画家の全貌にせまる過去最大の回顧展です。

－ 画家の制作を体感する展示構成

展覧会は大きく二つのセクションで構成されます。ひとつは、必ずしも時間の流れにとらわれない櫃田の制作にならって、作品を時系列ではなく、彼が手元に置いて制作の手掛かりとしてきた資料をふんだんに交えて紹介します。このスペースでは画家の作品の制作手法をうかがい知ることができるでしょう。

もうひとつのセクションでは逆に1960年代以降の作品を時代順に並べます。このふたつの展示構成により、櫃田の絵画の核心に迫ります。

－ 櫃田伸也をめぐるコレクション

同時開催のコレクション展では、当館の所蔵作品から櫃田伸也にかかわる作品を紹介します。櫃田の初期作品の重要な参照項だったフランシス・ベーコン、学生時代から親交のあった中西夏之や高松次郎、時代を並走した榎倉康二やタイガー立石。そして、大学での「教え子」である、奈良美智、小林孝亘、村瀬恭子、長谷川繁、森北伸、杉戸洋、小林耕平といった作家たちの作品が一堂に会します。

展覧会 カタログ

出品作品に加え資料などを多数掲載したカタログを刊行予定。コラムでは檀田伸也と「制作」「建築」「山水」「風景論」「日本戦後美術」など多様なトピックで檀田作品を読み解きます。

『檀田伸也 - 通り過ぎた風景』

編集・出版：torch press

デザイン：木村稔将

サイズ：A4 変型

価格：3,960 円（税込）

執筆者： エッセイ 鈴木俊晴、長谷川祐子
 コラム 奥村雄樹、桂川大、桑田光平、近藤亮介、
 佐々木友輔、佐原しおり

関連事業

- 講演会

「私を遊ばせると作品が生まれる—つくることの倫理」

講師：奥村雄樹（アーティスト）

日時：4月4日 [土] 午後2時 -

会場：美術館講堂

- 担当学芸員によるギャラリートーク

日時：4月18日 [土]、5月2日 [土]※、6月14日 [日]

各日午後3時30分 - 4時30分

※ ゲスト：桂川大（STUDIO 大・おどり場 主宰／本展会場構成）

- 作品ガイドボランティアによるギャラリートัวร์

日時：毎日午後2時 -、土日祝日は午前11時 - も（第三土曜日は除く）

このほかワークショップなど開催を予定しています

関連イベントの最新情報は美術館ウェブサイトにてご確認ください

お問合せ

豊田市美術館 〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町8丁目5番地1

HP:<https://www.museum.toyota.aichi.jp> e-mail:bijutsukan1@city.toyota.aichi.jp

- 展覧会に関すること 学芸担当：鈴木、亀山 Tel 0565-34-3131
- 掲載依頼・取材等に関すること 広報担当：西本、大柳、大原 Tel 0565-34-6748

檀田伸也—通り過ぎた風景 広報用画像について

当館ウェブサイト「広報用画像ダウンロード」申込みフォームより、ご希望の画像を申請してください。
「広報用画像ダウンロード」の画像提供サービスは、パソコンでのみダウンロード可能となります。
パソコンをお持ちでない方は、以下を記入のうえ、Faxでお送りください。

送り先：豊田市美術館 広報担当：西本、大柳、大原

Tel 0565-34-6748 Fax 0565-36-5103

e-mail: bijutsukan1@city.toyota.aichi.jp

お名前	様	ご所属
Tel		Fax
e-mail		必要な画像の番号
掲載紙／メディア名		発売、放送予定日 月 日 (月号、vol.)
必要な招待券枚数 (最大5組10名分)	枚	〒 招待券の送付先

*読者プレゼントのため等、希望する場合のみご記入ください



2



3



4



5



6



7



8

1 (本リリース1頁掲載) 展覧会告知用バナー | 2《箱》2003-2019年 豊田市美術館
3《空き地のプラン》2003年 愛知県美術館 | 4《触風景》1975/1985年 個人蔵 | 5《影》1965年 作家蔵
6《通り過ぎた風景(垣)》1990年 作家蔵 | 7《無題》制作年不詳 作家蔵 [photo: ITO TETSUO]
8「罪なき理性」展示風景 2019年 courtesy of KAYOKOYUKI [photo: OKANO KEI]

- ・1を除きキャプション、クレジット (©Hitsuda Nobuya, 2026) を必ず添えてください。
- ・作品写真のトリミング、文字のせはご遠慮ください。
- ・ご紹介いただく場合は、情報確認のためお手数ですがゲラ刷り等をお送りください。
- ・情報掲載後、献本または公開後の報告をお願いします。
- ・本展紹介でのご使用後は、各メディアの責任のもと画像データを削除破棄してください。

美術館使用欄 画像提供の依頼日 年 月 日 画像送付 校正 修正 配信・配本